■ 植物原料調達方針

・森林破壊・土地転換・フリーサプライチェーン

日清丸紅飼料は、人権侵害が存在しない供給体制と植物原料の森林破壊・無意味な土地転換を防ぎ、責任ある原料調達を目指して、次のような取り組みを進めています。

2025年5月を期限として、すべてのブラジル産大豆サプライヤーに対し、森林破壊・無意味な土地転換に関与しない原料調達の仕組みを構築することを求めています。これはブラジルで進行している森林破壊を止めるために必要な取り組みです。私たちは、森林破壊や環境破壊に加担しない責任があると認識しています。

さらに、日清丸紅飼料は大豆やパーム（アブラヤシ）だけでなく、私たちが購入するその他の主要な植物原料についても、森林破壊や無意味な土地転換のない原料調達を推し進めていきます。

2025年末までに主要な原料に対して「MN サプライチェーン構築計画 2025」を策定・推進していきたいと考えています。

・大豆栽培の背景

ここ数十年で世界的に肉や乳製品の消費が増えており、過去20年間で大豆の生産量は2倍になりました。大豆は主に豚、鶏、乳牛の飼料として使用されています。

南米の熱帯地域にある大規模な大豆畑では、新たに森林を伐採して作られるケースが多くみられ、また牧草地だった土地を大豆畑へと転換することで、牛の生育地が森の奥へと追いやられており、熱帯の主要な大豆生産国では毎年48ヘクタールの森林が大豆のために失われていると言われてしています。

大豆は多くの価値を持つ作物です。大豆はマメ科植物として空気中の窒素を「固定」することができるため、外部から窒素を供給する必要が減り、その結果、化学肥料の施用を減らす事ができます。大豆はタンパク質が豊富で、他のマメ科植物よりも油分が豊富なため、家畜の飼料以外に植物油やバイオ燃料の原料としても利用されています。

以前は熱帯地域の土壌は大豆栽培に適さないと言われていましたが、技術の進歩によって栽培が可能となりました。ブラジルは今や世界第2位の大豆生産国となり、こうした大豆生産の増加は森林伐採を推し進める1つの要因となりました。

大豆は養殖魚の飼料にも使用される高品質なタンパク質です。大豆由来の成分を魚粉の代わりに使用することで、養魚飼料中の魚粉使用量を3分の1から2分の1ほど削減する

ことができます。つまり天然魚由来の魚粉の使用量を削減することで、天然魚を獲りすぎずに済むというメリットに繋がります。

・アブラヤシ栽培の背景

パーム油は、アブラヤシの果実から得られる食用の植物油です。アブラヤシからは2種類の油が生産されています。パーム油とパーム核油です。パーム油は果肉を絞ることで得られ、パーム核油は果実の中心にある核、つまり種子を砕くことで得られます。核を絞ったあとに残るのがパーム核粕です。

パーム油は世界中で幅広く使用されている植物油ですが、アブラヤシを生産するために多くの熱帯雨林が伐採されています。生物多様性に富んだ熱帯雨林を伐採することで、オランウータン、ピグミーゾウ、スマトラサイなどすでに絶滅危惧種となっている動物たちの住みかを奪っている現実があります。

このような土地の転換は温室効果ガスの排出につながり、気候変動の一因になっています。

パーム油は、水産養殖飼料にはほとんど使用されていませんが、子豚や子牛の初期飼料などに含まれることがあります。

・バリューチェーン

日清丸紅飼料は、大豆およびパーム油由来の植物原料について、責任ある原料調達を実現するための方針を定めます。私たちは気候変動や循環型社会の実現、生物多様性や生態系の保全に貢献するために、特に森林破壊と土地利用について注目して取り組んでまいります。

私たちの目標は、2030年未までに、合法・違法を問わず森林破壊に関与しない大豆およびパーム油由来原料を調達することです。この方針を実現するために、大豆およびパーム油由来原料について、仕入れてから使用するまでのすべての過程において、環境に配慮した仕組みを構築していきます。

・生産国ごとのリスク評価と改善への取り組み

私たちは、原料調達先の国を、リスクの高い国とそうでない国に分けて評価します。

その上で、リスクの高い国については現地の状況をよく確認し、より安全で責任ある原料調達が出来るように改善を続けていきます。

・リスク管理フレーム（低リスクな植物原料リスト：表④）

～カテゴリー分類～

1：森林破壊・土地転換と強制児童労働のグローバルリスクが高い植物原料

対象一次原料：大豆・アブラヤシ

2：マスマランス比率が高い植物原料

対象一次原料：小麦・とうもろこし

～リスク要因の定義～

カテゴリー別に高リスク国の現状評価を行ったうえで

セクター別評価を下記4項目にてリスク指数総数から、低・中・高リスクの評価を行う

森林破壊、土地転換排除、強制児童労働、調達方針についてHPへの掲載状況

～リスクの改善～

私たちは、「MN サプライチェーン構築計画 2025」を通じて、高リスクとされる原料を優先して低リスクとなるように取り組んでいきます。特に最もリスクの高いカテゴリー1に分類される原料については、短期的にも長期的にもサプライヤーと連携しながら計画的に改善を進めていきます。

属書

A：フリーサプライチェーン

強制労働や人身売買などの人権侵害が存在しない供給網を指す概念です。特に近年、企業の社会的責任や環境・社会・ガバナンスの観点から重要視されており、サプライヤーと連携し、行動規範の遵守やトレーサビリティシステム導入などにより、第三者による監査・認証など教育・啓発活動を協働すること

主な内容

人権尊重：強制労働の排除・児童労働の禁止・適切な労働条件の確保・人身売買の防止・透明性

サプライチェーン全体の可視化：トレーサビリティの確保・情報開示の徹底・デューデリジェンス

サプライヤーの定期的な監査：リスク評価の実施・問題発見時の是正措置